

学部紹介ガイド

2021

人間福祉学部

社会福祉学科

社会起業学科

人間科学科

School of Human Welfare Studies



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

「すべての人たちが自分らしく幸せに生活できる社会の実現」をめざして

1952年に文学部社会事業学科から始まった関西学院大学の社会福祉教育・研究を受け継ぎ、

2008年に人間福祉学部は誕生しました。

60年以上にわたる歴史と伝統を基盤に置きながらも時代の風潮を取り入れ、

2020年度には「実践教育」をさらに充実させ、現場を肌で感じるプログラムを多数設置しました。

時々刻々と変化する社会の諸課題に対するソリューションを提案・実行する力を涵養し、

質の高い生活とよりよい社会の実現に貢献する人材の輩出をめざします。

Message from the Dean

『世界に一つだけの花』の歌詞のように私たち一人ひとりとは異なり、社会の中には多様性(ダイバーシティ)が存在します。

社会全体はもちろん、関西学院の構成員、そして人間福祉学部にも所属する学生や教職員の間にも、性別、年齢はもとより、国籍、人種、民族、出身地、主たる言語、宗教・信仰、身体的・精神的特徴、セクシュアリティ、あるいは経験や知識、文化や学問的背景に関する多様性が存在します。

しかし、「みんな違って、みんないい」はずの日本社会には、現実には特定の人たちが排除されてしまったり、不利な立場に追いやられたり、生きづらさを突きつけられたりしてしまっている現状があります。

こうした現状を変えるためにはどうしたらいいか。こうした不条理な社会を黙認する人間ではなく、「すべての人たちが自分らしく幸せに生活できる社会の実現」に貢献できる人間になるためには自分はどうしたらいいか。

その答えを、ぜひ、人間福祉学部での学びの中で見つけてください。



人間福祉学部長 武田 丈

P02	3つのCを育む人間福祉学部の学び	P07	社会福祉学科
P03	特徴1「3学科共通専門科目」	P09	社会起業学科
P04	特徴2「学科融合型の学び」	P11	人間科学科
P05	特徴3「実践教育」	P13	就職・資格、卒業生

3つのCを育む 人間福祉学部の学び

豊かな「人への思いやり(compassion)」、柔軟で包括的な「幅広い視野 (comprehensiveness)」、

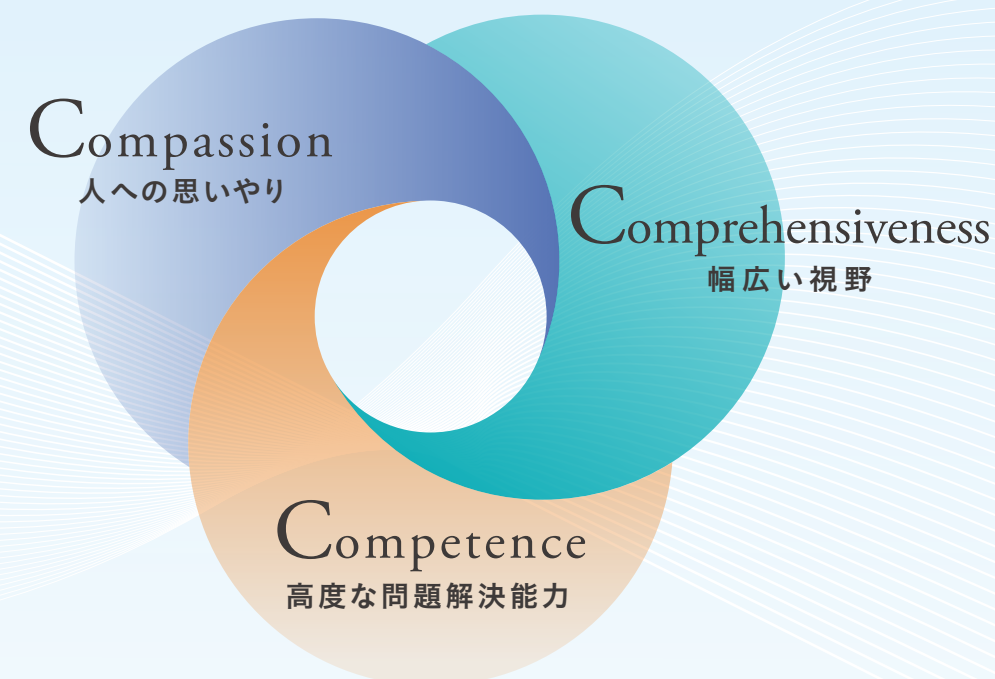
そしてさまざまな社会福祉学的あるいは健康科学的な課題に対してソリューションを導き出す

「高度な問題解決能力 (competence)」。

「人間」とその生活環境としての「社会」、そしてその両者の交渉関連として「交互作用」に関わる

諸問題に対してソリューションを提供し、質の高い生活とよりよい社会の実現に貢献するために、

人間福祉学部では、これら「3つのC」を身につけることが不可欠であると考えます。



2020年度 新カリキュラム導入

「3つのC」の浸透と学際性の拡張をめざし、学科間の学びの相乗効果をさらに高めるため、カリキュラムの拡充・強化を行いました。
さまざまな分野の事象が複雑に絡み合う現代社会の課題に新たな発想で立ち向かい、
ソリューションを提案できる人材を育成していきます。

POINT.1

3学科に共通する
専門科目の開講

▶ 詳しくは特徴1「3学科共通専門科目」へ

POINT.2

学科を越えた
ゼミ履修が可能に

▶ 詳しくは特徴2「学科融合型の学び」へ

POINT.3

学科横断型
実践教育の拡充

▶ 詳しくは特徴3「実践教育」へ

3学科共通専門科目

人間福祉学部では、どの学科でどんな専門的知識や技能を学ぶにあたって、学生が共通して「3つのC」を身につけることをめざしています。特に「3つのC」の獲得の土台となる科目を「3学科共通専門科目」として開講し、目的意識を持った学際的な学びを推進します。

3つのCの獲得のために土台となる科目

Compassion 人への思いやり

ボランティア論/人権政策論/子ども学/老年学/生命倫理学/死生学/人間多様性論

Comprehensiveness 幅広い視野

国際問題論/Human Welfare and International Development/NPO論/グローバル化社会と福祉/社会問題論/高齢者と福祉/社会開発論/社会的包摂論/人間福祉情報論/国際協力演習/障害学/手話言語学基礎/手話言語学専門/シニアビジネス論/災害復興学/ディアスポラ論/平和研究

Competence 高度な問題解決能力

人間福祉グローバル演習A～H/社会起業プラクティス演習/社会起業プラクティス/人間福祉(国内・海外)フィールドスタディI～III

学科融合型の学び

学生が学科の枠を越えて興味のある科目を履修することができるよう、3学科の学びが連携しています。一つの分野を深化していくと同時に、他分野の視点・知識も積極的に吸収できる環境が整っています。

社会福祉学科 × 人間科学科

これからの社会福祉にはスピリチュアリティの視点が欠かせない。

真の意味での豊かさとは、単に物質的・精神的豊かさだけではなく、「何のために生きるのか」という人間の根源的な問いかけ(スピリチュアリティ)が満たされることが不可欠です。重度の障害者、こころの病を持った人、高齢者など、どのような立場の人に対しても、スピリチュアルな痛みをとらえる視点がこれからの社会福祉に求められています。そこから、どんな具体的な支援が必要かが見えてくるのです。

社会起業学科 × 社会福祉学科

高齢化による社会問題にも新ビジネス発想で応え、グローバルに解決する。

ホームレスの高齢者に生活保護申請の支援と住宅提供をしている企業や、不登校児童や子どもたちにキャンプ事業を展開しているNPO法人。介護の必要な高齢者や障害者向けにデイサービスを経営している民間事業など、社会問題に貢献するビジネスは数多く存在します。社会福祉のニーズを社会起業の発想で解決するための社会的ビジネスモデルを創出していきます。

社会福祉学科

幅広い分野における実践的な学びを通して未来の社会を支えるソーシャルワーカーを育成

人間科学科

人間の「こころ」と「身体」の両面からクオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上に貢献する人材を育成

社会起業学科

多元的・国際的に行動する「市民力」と優れた起業能力を持った人材を育成

人間科学科 × 社会起業学科

健康を追求する心理と行動を知り、スポーツもレクリエーションも起業に繋げる。

プロ野球やJリーグは成功したスポーツビジネスの実例と言えるでしょう。スポーツをイベントとして成功させるには、スポーツ文化の振興が必要です。キャンプ、トレッキングやダンス、ゲームなどのレクリエーションにも、健康ビジネスとしての需要が高まる時代において、国内外を問わず新たなサービスの開拓に挑戦していくことが求められています。

※人間福祉学部では、障害を社会的障壁ととらえ、あえて「障害」と記載しています。

学科横断型ゼミについて

人間福祉学部では、3年次に「研究演習I」、4年次に「研究演習II」という演習系の必修授業(いわゆるゼミ)を、2年間同じ教員のもとで履修します。従来のゼミは、所属学科の教員が開講するゼミのみ選択が可能でしたが、新カリキュラムでは、学科の枠を越えてゼミを履修できる学科横断型ゼミを開講します。学生が、各学科で学んだそれぞれの分野の知識や、学科横断型実践教育科目で得た新たな視点を提供し合いながら、ゼミを運営していきます。異なる前提知識、バックグラウンドを持った学生同士がさまざまなテーマに関して議論を重ね、発表し、共に学ぶ中で、物事を多角的に分析する能力を養います。

※すべてのゼミが学科横断型ゼミとして開講される予定ではありません。

言語教育科目 3学科共通で開講 科目例：日本手話

ろう者にとって欠かせないコミュニケーション手段である「日本手話」を、本学で唯一第二言語として開講しています。授業は実技はもちろん、ろう者の考え方を学ぶ講義もあり、単に日本手話を修得するだけでなく、ろう者への理解を深めることもできます。

人間多様性論

社会の中で生まれる差別、抑圧、多文化主義などについて知識を深めます。マイノリティに焦点を当て、社会の多様性を理解し、自分自身の価値観だけがすべてではないことを認識することで、人間福祉を実践するうえでの基礎的な考え方を身につけます。

※「人間多様性論」の単位を修得した者のうち、希望者は「ユニバーサルマナー検定2級・3級」の認定証と「LGBT対応マナー研修」の修了証を取得可能。

社会問題論

資本主義システムは転換期にあり、地域社会や家族も変容する現代で、福祉や雇用、社会的排除の社会問題の本質を考察します。グローバルな視点から、日本と世界の貧困・格差社会に対する問題意識も高めていきます。

人間福祉グローバル演習E

コロンビアでは、不安定な社会情勢が貧困や格差などの社会問題を引き起こしています。特に、内戦が終結したことにより今後ますます必要となってくる青少年教育や地域の安全、人権保護に関する問題は、発展途上国であるコロンビアならではの課題といえます。この授業では実際に現地へ赴き、これらの課題を解決するために実施されている革新的な取り組みの現状を視察。アンティオキア大学の教員や学生たち、現場で活動する人々との交流を通して幅広く学びます。



参加者の声

第二言語で学んだスペイン語を活用して何か活動をしたいと考え、参加を決めました。コロンビアでは、内戦を経験した人から当時の話を直接聞いたことや、多様性について日本とは異なる角度から学べたことが印象に残っています。演習を通して、現地に赴き実際に見てみることの大切さを強く実感し、学部で学んでいるソーシャルワークの理論も、実践することではじめて活かせるものであるという気づきを得ることができました。

小松 桃香

社会福祉学科 4年
大阪府・関西大倉
高校出身



実践教育

人間福祉学部は、実践教育を学部創設当初から重視してきましたが、新カリキュラムではさらに実践教育を充実させました。自らの専門分野を深化させる学科ごとの実践教育と並行して、他学科、他分野のフィールドでも経験を積むことができる実践教育科目をあらたに開設しました。現場での実習だけではなく、事前計画の立案、事後学修による省察を綿密に行うことによって、一連の学びのプロセスを自身の糧として蓄積できます。

多様な現場での実践教育を展開

ソーシャルワーク マインド



Pick up ソーシャルワーク 実習入門

ソーシャルワーク実践教育の第一段階として、現場での実践教育のために必要な、基本的な知識、態度、価値について体験を通して学びます。合宿、施設・機関の見学実習、居住地域のタウンウォッチングの体験が授業の中核となります。

海外で活躍



Pick up 社会起業 フィールドワーク(海外)

事前・事後学修とフィールドワークを通じて、海外の一地域の社会問題とその解決に取り組む社会的企業や事業について学び、現場において考察を深めることをめざします。現地企業では、インタビューや業務補佐など、事前学修で考案した活動を実施します。

地域とつながる



Pick up 野外教育実習A

野外教育の現場で行われる組織キャンプの指導理論と指導技術を学びます。また、これらを通して、一般的な組織の運営についても理解することをめざします。実際に山野に出かけ、自然の中での基本的な生活技術(野外炊事、テント設営等)を修得します。

参加者の声

伊藤 朱里

社会福祉学科 4年
兵庫県・神戸高校出身
科目名/ソーシャルワーク演習・
実習指導・実習



児童養護施設で1か月間の実習に参加。社会福祉士の働き方や、家族と暮らせない子どもたちの暮らしについて理解を深めました。印象に残っているのは、職員の方の「子ども自身ではなく、周りの環境に問題がある」という言葉。実際に生活を共にすることで、子ども本人の課題に対する目標設定だけでなく、家庭や地域、学校からの総合的な支援を考える広い視野が必要であると強く感じました。施設への事前訪問や、演習の授業でコミュニケーション方法を学ぶ機会が用意されていたため、安心して実習に臨めました。また、実習後は異なる領域での実習を体験したクラスメイトたちと事例を共有し合うことで、学びの幅を広げることができました。

西村 公泰

社会起業学科 4年
大阪府・住吉高校出身
科目名/社会起業フィールドワーク
(海外)



地域開発や社会問題の解決には、現場の実態を把握することが重要だと考え、タイで社会問題の解決に挑む企業や団体を訪問。現地では、医療や看護を学ぶ学生たちと交流する機会がありました。タイを「途上国」と考えていた私にとって、彼らの勉強に対する熱心な姿勢は、価値観を覆す衝撃的なものでした。中には、ビジネスキャリアを通してタイに貢献したいという学生もいて、大きな刺激となりました。この経験を通じて、肌で学ぶことの重要性を実感し、五感でインプットした知識は何物にも代えがたいものであることに気づきました。卒業後は、異文化を受け入れる姿勢や相手の目線に立ったコミュニケーション力により磨きをかけ、海外の顧客と良い関係を構築できるビジネスパーソンになりたいです。

実践教育科目の紹介

各学科の実践教育科目の一例

社会福祉学科	社会福祉フィールドスタディ、ソーシャルワーク・インターンシップ、学校ソーシャルワーク実習、精神保健福祉援助実習、医療ソーシャルワーク・インターンシップ 等
社会起業学科	社会起業フィールドワーク(国内・海外)、社会起業アドバンスト・インターンシップ、社会起業入門演習、社会起業調査実習 等
人間科学科	人間科学フィールドワーク、野外教育指導実習Ⅰ・Ⅱ、運動生理学実験実習、スポーツバイオメカニクス実験実習 等

3学科共通の実践教育科目の一例

人間福祉(国内・海外)フィールドスタディⅠ～Ⅲ、社会起業プラクティス演習、社会起業プラクティス

実践教育支援室の紹介

人間福祉学部では、各学科における実習やインターンシップ等の実践教育がスムーズかつ実りのあるものとなるように、実践教育支援室を設けています。福祉、医療、NGO、NPO、社会的企業、自治体、教育など約200の国内外の機関から学生のニーズに応じた実践教育の場を紹介することが可能です。さまざまな福祉施設やNPO法人で活躍した実務経験のあるスタッフが、実践教育関連科目のプランニング、実践教育機関のコーディネート、実践教育に関する調査・研究や教材開発を行っており、学生へのきめ細かなサポートをしています。また、カメラやモニターなどを駆使し、対人コミュニケーションスキルを磨くことができる「コミュニケーション・ラボ」を設置しています。

正課外での取り組み

- ・社会福祉士・精神保健福祉士国家試験☆合格塾☆
- ・人間福祉学部 実践教育報告会
- ・福祉系進路相談セミナー
- ・社会起業学科生 新入生歓迎プログラム 「これが社起やDAY！」



実践教育支援室の詳細はこちら

https://www.kwansei.ac.jp/s_hws/s_hws_m_000381.html



実習助手の声

実践教育支援室では、多種多様な専門知識・経験を持つ実習助手が、学生にとって身近な存在として、幅広い相談に応じています。実践教育で現場に赴く中で、さまざまな人々や課題との出会いがあります。現場の人と向き合い、何が最善なのかを考えることで、人に寄り添う共感力や、多角的な視点を持って物事を理解し、実行に移す問題解決能力が身につきます。皆さんの関心に応じた機関でさまざまな気づきを得られるよう、実践教育支援室が全面的にサポートしていますので、ぜひ一緒に学びを深めましょう。



実践教育支援室
西田 麻由香
人間福祉実習助手



社会福祉学科



幅広い分野における実践的な学びを通して 未来の社会を支えるソーシャルワーカーを育成

学びのポイント

Point.1

キャンパス内外での実践教育を通して、福祉のプロとしての確かな実践力を養成

キャンパス内コミュニケーションラボでの演習や、福祉・医療の現場での実習・インターンシップを系統的に多数開講。福祉のプロとして業務に活かせる知識・スキルを培います。

Point.2

ひとりの市民として深く福祉にかかわる姿勢を身につける

福祉に関する政策や理論、社会福祉サービスの機能や実情等、社会福祉領域を幅広く学び、社会福祉の観点で物事をとらえ、考える力を養います。

Point.3

国家試験受験資格を取得可能

社会福祉学科生は「社会福祉士」「精神保健福祉士」の国家試験受験資格を取得可能。受験対策講座などサポートも充実しています。

履修科目例

※★印のついた科目履修者の声を5ページに掲載しています。
※下記に掲載している科目は、開講科目の一部です。履修モデル例は、本学部ホームページよりご覧ください。
https://www.kwansei.ac.jp/s_hws/s_hws_001642.html



1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅰ(必修科目) ソーシャルワーク教育の第一段階として、ラボラトリー方式の体験学習プログラムによりさまざまな関わりを体験し、ソーシャルワークの学びの基盤を作ります。	Ⅰ 障害者福祉論 障害児・者福祉の基礎となる、障害モデル、理念、障害者施策の歴史、障害者福祉に関連する法制度についての基礎的な理解をめざします。	Ⅰ 社会福祉質的調査法 社会福祉の施設・事業所・行政機関で働くソーシャルワーカーとして、将来、質的調査法を用いて社会福祉に関する調査を行うための、基礎的な知識とスキルを養います。	Ⅰ ジェンダー福祉論 ジェンダーによる規範は社会福祉の問題の誘因になっており、ジェンダーバイアスから自由になることは、その解決につながります。学生が男女共同参画社会の担い手になれるような意識形成につとめます。
Ⅱ 医学一般 心身機能と身体構造およびさまざまな疾患や障害の概要について正しく理解し、代表的疾患を例に、その病態・治療のみならず、治療の限界を知り患者や障害者の全人的痛みを感じられる基礎を養います。	Ⅱ コミュニティワーク論 地域福祉実践の方法としてのコミュニティワークの理論と方法を学びます。社会福祉の視点からのコミュニティの理解、地域福祉実践の方法の全体像および地域福祉活動における地域住民への支援方法の理解をめざします。	Ⅱ ソーシャルワーク実習★ 社会福祉士をめざす学生を対象に、実習施設において現場実習を行います。社会福祉専門職に必要な職業倫理、専門知識、専門援助技術、関連知識を学び、対象者理解および援助技法の適応を試みます。	Ⅱ ソーシャルワーク・インターンシップ ソーシャルワーク実習での経験を土台に、社会福祉士の資格取得にとらわれずに児童福祉、高齢者福祉等の領域の施設や、公的機関、海外NGO等で実習を行い、専門職に必要な価値観・知識・技術を修得します。

2021年度に社会福祉士養成課程・精神保健福祉士養成課程における教育内容等の見直しが行われることに伴い、関連するカリキュラムを一部変更する予定です。

他者への思いやりの心と、広い視野で あらゆる問題解決に貢献できる人材を育成する

何か問題が起こったとき、その要因を正しく把握するためには、広い視野で物事を見る力が必要です。本学科では、社会福祉への理解を深められる講義・演習・実習の一貫した学びを展開。自分と異なる立場から物事を考えたり、問題の当事者だけでなく作用している環境に目を向けたりすることで、問題解決に必要なソーシャルワークマインドを養います。こうして本学科で培った力は専門職ではもちろん、幅広い領域で活かすことが可能です。私はスクールソーシャルワークや児童養護施設における自立支援について研究しています。ゼミでは、児童虐待や子育て支援など子ども家庭福祉の研究を扱っており、2019年度は児童虐待防止啓発活動である「学生によるオレンジリボン運動」に参加しました。身近に感じる難しいテーマですが、ゼミ生一人ひとりが児童虐待を自分事としてとらえ、主体的に企画に取り組みました。人々のよりよい生活の実現に貢献したい人は、ぜひ社会福祉学科にお越しください。



社会福祉学科
馬場 幸子 准教授



ゼミ活動の様子：「学生によるオレンジリボン運動」

担当科目Pick up

ソーシャルワーク演習Ⅱ

人々が直面する困難の要因を多角的な視点で考える

人々が生活を送るうえで抱える困難について、当事者である個人だけに焦点を当てて要因を探るのではなく、家庭、友人関係、地域、制度・政策など、その人を取り巻く環境もあわせて考える力を身につけます。また、援助者としての姿勢や、福祉サービスを利用する人との関係性構築、コミュニケーション方法についても学びます。現場での実習に備え、体験学習で実践的なスキルを育成します。

関連ワード # ソーシャルワーク # コミュニケーション # 面接技法

Student's Voice

社会福祉・介護分野に限らず、どんな場面でも 活かせる「相手と向き合う姿勢」が身についた

社会福祉学科では、座学で行う授業以外にも演習・実習が充実しており、社会福祉士や精神保健福祉士の資格取得をめざすうえで必要なサポートが整っています。ソーシャルワーク演習・実習等の授業で福祉についての理解が深まったことはもちろん、相手の言葉に耳を傾け尊重する姿勢も身につきました。この姿勢は、社会福祉専門職に限らず、どのような職種においても、相手との信頼関係の構築に活かせるものだと感じます。学部での学びを通して、「生活で問題を抱えている人の幸せに貢献したい」という思いを抱くようになりました。卒業後は福祉職に就くので、これからも誰かが困っている時に適切な形で手を差し伸べられるよう努力していきたいです。



山内 紗也華
社会福祉学科 4年
愛媛県・済美高校出身

山内さんの大学生生活記録

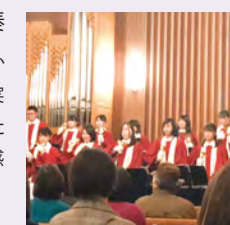
Ⅰ ゼミ活動にも積極的に参加

松岡克尚教授のゼミに所属し、主に「障害者福祉」の研究をしています。障害者週間では「合理的配慮と特別扱いの違い」や「障害者との共生」についてゼミ生で研究し、ポスター掲示を行いました。学生同士の仲が良く、助け合いながら活動に取り組んでいます。



Ⅱ キャンパス内のチャペルでハンドベルを演奏

関西学院ハンドベルクワイアで、一般の方からの演奏依頼の受付窓口となり、演奏会の実施準備を行いました。大変なこともありましたが、満足のいく演奏やお客様の笑顔に達成感を得られた、素晴らしい経験になりました。



社会起業学科



多元的・国際的に行動する「市民力」と優れた起業能力を持った人材を育成

学びのポイント

Point.1

新しい発想を生み出す 社会起業家をめざす

国内外の多文化共生、貧困、障害、差別、地域格差などについて学びます。「社会起業ブラクティス」では課題解決に寄与するプランを立案・実行し、課題解決能力を身につけます。

Point.2

グローバル・ローカルな視点を持ち 国内外で活躍するための能力を磨く

「社会起業英語中期留学」を通して国際ビジネスに必要な英語力や柔軟性を養います。また、1年次のフィールドワークでは、国内の課題に対する問題意識や「社会を見る目」を養います。

Point.3

課題を抱える社会の現場に 自ら足を運び実践的に学ぶ

国内外のNGO・NPOや行政と連携したインターンシップでは、課題を抱える現場を考察・分析します。企画書作成や企業への事前ヒアリングも行い、一連の課題解決プロジェクトを遂行します。

履修科目例

※下記に掲載している科目は、開講科目の一部です。履修モデル例は、本学部ホームページよりご覧ください。
https://www.kwansei.ac.jp/s_hws/s_hws_001642.html



1年次	2年次	3年次	4年次
社会起業入門演習(必修科目) 多角的な視点から社会問題を発見し、解決策を提示する力を身につけ、自分自身が考える社会問題とその解決方法を第三者にわかりやすく説明する技術の向上をめざします。	国際協力演習 紛争経験国における和解促進・社会統合・開発協力について学習します。対象国の基本情報、さまざまなアクターの支援方法について文献を読んだのち、独自の事業計画を立案します。	現代ジェンダー論 現代の社会問題や政策課題をジェンダーの視点から理解することを通して、社会において学生が直面している問題についてジェンダーの視点から分析、考察し、提案する力を身につけます。	財政と社会保障 社会保障制度の持続可能性確保は、日本の財政における中心課題です。日本の社会保障制度の全体像について財政の観点から考察します。
社会起業フィールドワーク(国内)(必修科目) 国内で問題となっている多様な社会的課題の実情と向き合い、課題に直面している当事者や課題解決に取り組んでいる団体・人々から社会や生活、地域の現実を積極的に学び取ることを通じて視野を広げ、問題意識を深めます。	社会起業英語中期留学I～IV 本学に在学したまま、カナダ・クイーンズ大学にて12週間の英語学習プログラム(English for Academic Purposes (EAP) Program)に参加。授業以外に、さまざまなアクティビティが行われます。	グローバル化社会と福祉(英語開講科目) This course focuses on cross-national comparisons of social welfare policies, social development theories and policies. Students analyze selected countries' policies and social development strategies.	社会起業アドバンスト・インターンシップ 4年次の卒業研究のテーマに関連するフィールドにおいてインターンシップを計画し、NPOや地域活動団体にてインターンシップを行い、現場における実践経験と卒業研究の内容を深めます。

新たな発想の実現に挑むことで 人々が豊かに暮らせる社会への道を切り拓く

現代社会には、さまざまな社会課題が山積しています。本学科ではそれらの問題に共感し、解決に導く人材を育成するために、国内外の幅広いフィールドで実践的に学ぶ機会を多数設けています。また、社会の現場での振る舞い方を学べる「社会起業コミュニケーション演習」(2021年度新設)など、実践教育をサポートする授業も実施。初めての体験は不安をとまいますが、新しい物の見方や、学びへのさらなる向上心の獲得につながる素晴らしい経験となります。スポーツマネジメント、スポーツマーケティングを専門とする私のゼミは、スポーツを用いた社会問題の解決をテーマに活動。陸上競技と算数を掛け合わせたイベントで、子どもの学力向上に貢献するなど、今までにない発想を活かした活動を展開しています。本学科には目的達成のためのプロセスをきちんと構築し、新しいことに挑戦できる環境が整っています。ぜひ常識にとらわれず、チャレンジする姿勢を持って、すべての人が自分らしく幸せに生活できる社会の実現をめざしてもらいたいです。



社会起業学科
林 直也 教授

担当科目Pick up

社会とスポーツ／スポーツビジネス論



ゼミ活動の様子:小学校での「陸上競技×算数」教室

身近なスポーツを“経営”の観点から考える

「社会とスポーツ」では、経営の観点から見たスポーツの基礎知識を修得します。そのうえで「スポーツビジネス論」では、スポーツ組織のビジネス場面における目的(普及や、参加者・観戦客の増員)を効率よく達成するための方法論を取り上げ、スポーツビジネスに活かすためのマーケティング理論を学びます。これらの授業でスポーツマネジメントに興味をもった方は、ぜひ私のゼミでスポーツを活用した社会貢献活動に挑戦しましょう。

関連ワード # マネジメント # マーケティング # プランニング # 経営 # スポーツ

Student's Voice

社会問題に取り組む人々との交流の中で 自己学習だけでは得られない気づきを得られた

社会起業学科の学びでは、学外に出て、社会問題の当事者や課題解決に向けて最前線で活躍する方と交流する機会が多くあります。「社会起業フィールドワーク(国内)」では、障害者の方々や働く職場を訪問。私たちと変わりなく働く姿を見て、障害者雇用のイメージが大きく変わりました。学部開講科目以外にも、ラオスでの5か月間のインターンシップなど、現場での経験を通して、自己学習だけでは気づけなかった新たな発見を得られました。自分の世界を広げられる場所はキャンパス内にもあります。私の所属する多文化共生のゼミでは、それぞれの問題意識や価値観を持った仲間と頻りに議論を交わします。自分の主張を持ちながら、他者の意見も受け入れる思いやりのある人ばかりで、日々良い刺激を受けています。卒業後は、支援を必要としている人に貢献できるビジネスに携わりたいです。



宮崎 智也
社会起業学科 4年
高知県・土佐高校出身

宮崎さんの大学生生活記録

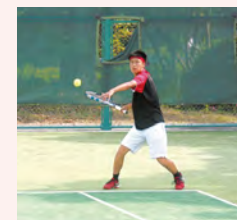
ラオスで国際社会貢献活動に参加

言語学習動画を制作・配信し、ラオスと日本の文化交流に貢献。言語や文化が異なる人々と新しい価値を創造できたのは、学科のフィールドワークで現場の人と関わる経験を積んできたからこそ。異国の地で、学部・学科での学びを活かしたことは大きな自信につながりました。



サークルの在り方を模索中

テニスサークルに所属しています。中学校・高校では硬式テニス部で全国大会をめざしていたため、活動中は指導者の立場になることが多いです。レベルも活動目的も異なるメンバーが所属する中で、みんながテニスを楽しめる方法を模索しながら取り組んでいます。



人間科学科



人間の「こころ」と「身体」の両面から クオリティ・オブ・ライフ (QOL) の向上に貢献する人材を育成

※QOL:いのちの質、生活の質

学びのポイント

Point.1

こころと身体を体系的に学び QOLを支えるエキスパートをめざす

全人としての人間を理解するために、心身の健康について多角的・実践的に学びます。病む人、高齢者、障害者スポーツの支援者など、多様な場面で人々のQOLを支える人材を育成します。

Point.2

人々の痛みや苦しみを理解し、 寄り添う姿勢を身につける

本学科で学ぶ「こころ」とは、人間の生きる意味や存在価値に根拠を与える根源的領域を指します。「いのち」についての究極的な問いに迫り、生まれてから死ぬまで、人間をまるごととらえ、「いのち」を見つめ直します。

Point.3

保健体育教員免許ほか 多様な資格取得が可能

本学で唯一中学校1種・高等学校1種(保健体育)の教員免許が取得可能です。初級障がい者スポーツ指導員やキャンプインストラクターなどの資格も取得可能です。

人間科学科で学ぶ「こころ(スピリチュアリティ)」について詳しく知りたい方はこちらにアクセス
https://www.kwansei.ac.jp/s_hws/s_hws_009853.html



履修科目例

※下記に掲載している科目は、開講科目の一部です。履修モデル例は、本学部ホームページよりご覧ください。
https://www.kwansei.ac.jp/s_hws/s_hws_001642.html



1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
 人間科学入門(必修科目) 人間の誕生から死までのライフサイクルにおける、こころと身体の変化と課題について、知識と技能を学ぶと同時に、人間存在の意味について考えます。	 デス・エデュケーション 人の生と死・いのちについて、社会や私たちの死のとらえ方を自己覚知し、いのちに関わるさまざまな現代の問題について、その背後にある価値観を学び、具体的課題にアプローチします。	 対人援助コミュニケーション演習I 他者との関係を築くうえで欠かすことができないコミュニケーションの基本を学び、自分を尊重し、他者を尊重するコミュニケーション方法を身につけます。	 人間科学フィールドワーク 人間について、こころと身体の両面から学んできたことを実際のフィールドを通して実践的に理解し、深い人間理解をもとに人に関わり支援できる人材を育成することをめざします。
 発育発達論 人間の身体的な発育発達への理解を深め、各年齢期の身体的発育発達についての正しい知識を身につけ、発育発達学における「発育」と「発達」の違いや環境が発育発達に与える影響について説明できることをめざします。	 スポーツバイオメカニクス 力学を基礎学問とし分析対象を生体とした分野の生体力学と訳されるバイオメカニクスを学びます。スポーツバイオメカニクスの基礎から現場や生活への応用を学び、当該分野の問題解決に必要な基礎知識を身につけます。	 障害者スポーツ演習 日本障害者スポーツ協会の要求するスポーツルールと技術について実践を通して学び、障害者スポーツを楽しく安全に実施、指導することをめざします。('初級障がい者スポーツ指導員資格'申請のために単位修得が必要。)	 野外教育指導実習II 体験学習サイクルを理解し、さまざまなキャンプ場面で効果的な振り返りから一般化できるようになることをめざし、実践での野外教育指導ができる力を身につけます。

学問領域やキャンパスの枠を越えて“人間”を学び 自己と他者の幸せを実現する力を養う

人間の「こころ」と「身体」について、死生学や身体運動科学を中心とする幅広い学問の視点から学べるのが本学科の魅力です。多様な専門領域をもつ教員たちが、それぞれの研究フィールドとのつながりを活かし、病院や福祉施設、学校での実習といった社会の現場での教育を展開。学際的かつ実践的な学びで、自らの生き方を見つめ直し、他者の心に寄り添う力を身につけます。私は喪失と悲嘆、死別に関する研究をしています。統計的な分析や、当事者への聞き取りを通して、大切な人との死別などの喪失体験をした人への支援について考えています。2019年度のゼミでは、犯罪や事故で理不尽に命を奪われた犠牲者のパネルを用いたアート展を企画。ゼミ生一人ひとりが命と真剣に向き合い、自らの生き方を考える貴重な機会になりました。本学部は、価値観が多様化する現代社会において、自分を含み“人”の幸せとは何かを考える学部です。幸せを実現するために、自分に何ができるか、社会はどうあるべきか、共に考えましょう。



人間科学科
坂口 幸弘 教授



ゼミ活動の様子：パネルを用いたアート展

担当科目Pick up

グリーフケア論

人生と切り離せない“喪失”に向き合う

グリーフケア(遺族ケア、死別ケア)とは、深い悲しみの中にある人々への支援のことです。この授業ではグリーフケアの基本的な考え方や方法について修得し、現状と課題を理解します。死別に限らず、生きていれば誰もが“喪失”を体験します。人生の困難にどう向き合うか、また喪失を経験した人にどう接するか。授業を通して“喪失”を疑似的に経験することで、傷ついた他者への理解を深め、自らの価値観を養います。

関連ワード # 死生観 # ペットロス # 終末期医療 # 自殺 # 生きる意味

Student's Voice

多様な学問から“人間”にアプローチすることで 物事を見る視野や価値観が広がる

人間科学科では、人を「こころ」と「身体」の両面から学びます。「こころ」の分野では、「死生学」の授業で死を恐ろしいものではなく生きることの一部としてとらえるなど、新鮮な考えに触れられました。「身体」分野の「スポーツバイオメカニクス実験実習」では、人の動きをコンピュータで解析し、人間の動作の奥深さを実感。人間の2つの側面を切り口に幅広い分野の学問に触れたことで、物事を多面的にとらえる力が身につきました。また、実践教育を重視する学部の環境を活かして、フィールドワークやインターンシップ、教職課程などさまざまな挑戦をしてきたことも広い視野の獲得につながったと感じます。将来は、医療現場で働きたいと考えているため、学部で培った人体に関する知識はもちろん、患者さんとのコミュニケーションなどの場面で、こころの学びも役立てたいです。



中俣 旭日
人間科学科 4年
新潟県・六日町高校出身

中俣さんの大学生生活記録

| 仲間との協力が欠かせないゼミ活動

ゼミでは、モーションキャプチャーを用いて人の動作を研究しています。実験には機材の準備が必要のため、ゼミ生同士の協力が欠かせません。みんなで取り組むうちに絆が生まれ、今ではお互い息を合わせて研究を進められるようになりました。



| スキーに打ち込む日々

スキー競技部に所属し、全日本インカレで上位入賞できるよう日々練習に取り組んでいます。得意種目はクロスカントリー。陰しくも美しい山道のコースを滑る楽しさは、何ものにも代えがたいです。

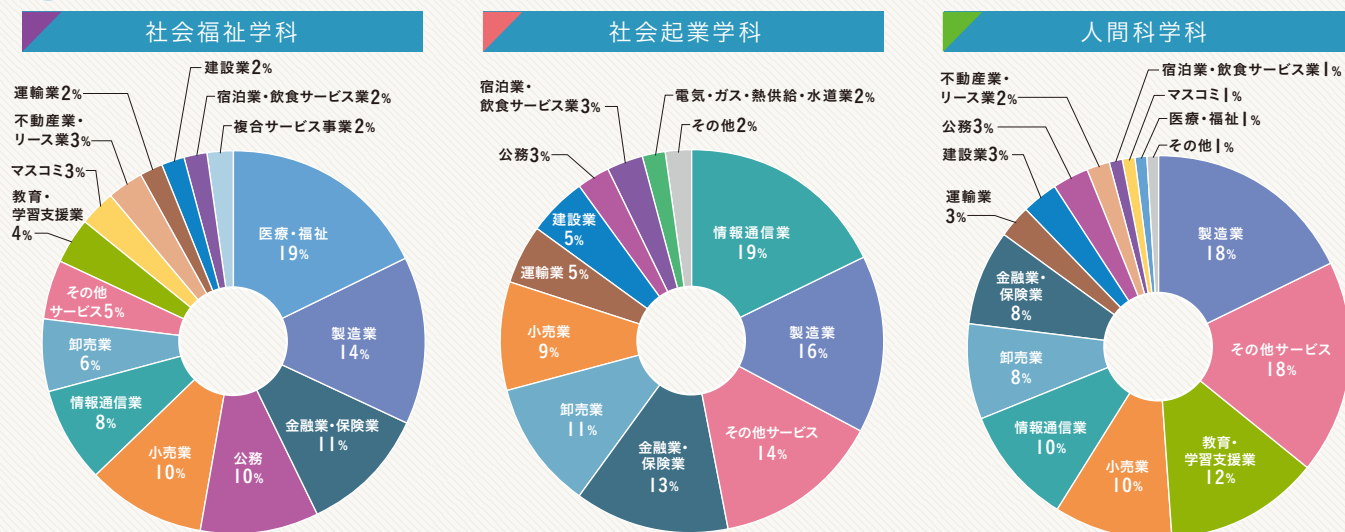


就職・資格

就職実績（2019年度学部卒業生 就職率100%）※就職率…就職決定者／就職希望者

業種別就職状況

※円グラフの数値は小数点第1位で四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。



主な就職先

社会福祉学科
大阪府社会福祉協議会、神戸市民病院機構、日本赤十字社、ベネッセスタイルケア、大阪市、神戸市、大分県、三菱電機、富士通、日本製粉、リンナイ、エーザイ、日本航空、みずほフィナンシャルグループ、オリックス、日本生命保険、リクルートホールディングス など

社会起業学科
日本電気、ジョンソン・エンド・ジョンソン、楽天、LIXIL、キャンソマーケティングジャパン、博報堂DYS、スポーツマーケティング、日本アイ・ビー・エム・ビズインテック、星野リゾート、西日本鉄道、富士通フロンテック、リそなホールディングス、損害保険ジャパン、第一生命保険、国家公務員（一般職）、国税専門官 など

人間科学学科
パナソニック、三菱電機、日本精工、積水ハウス、キーエンス、ハウス食品、伊藤ハム、アサヒビール、サッポロビール、ポッカサッポロフード&ビバレッジ、日本航空、日本旅行、住友不動産販売、マイナビ、神戸市、兵庫県教育委員会、大阪府警察本部 など

取得可能な資格

社会福祉学科	社会起業学科	人間科学学科
- 社会福祉士（国家試験受験資格） - 精神保健福祉士（国家試験受験資格） - スクール（学校）ソーシャルワーカー（一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟公認）	- 教育職員免許状 高等学校Ⅰ種（公民） - 学校図書館司書教諭	- 教育職員免許状 中学校Ⅰ種（保健体育） - 教育職員免許状 高等学校Ⅰ種（保健体育） - 学校図書館司書教諭

3学科共通

- ユニバーサルマナー検定2級・3級
- LGBT対応マナー研修修了証
- 国際バカロレア教員認定証（DP）
- 初級障がい者スポーツ指導員（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会公認）
- キャンパインストラクター（公益社団法人日本キャンパ協会公認）

人間福祉研究科への進学

学部での学びをさらに深めて、人と社会（環境）の相互作用を学び、多様な諸問題の解決を図ります。

人間福祉研究科ホームページはこちら
https://www.kwansei.ac.jp/s_hws/s_hws_m_000098.html



なお、学部を3年で卒業し、本学大学院に早期に進学できる「早期卒業」の制度を設けています。

社会で活躍する卒業生

毎年多くの卒業生たちが、学部で修得した知識・能力を活かし、幅広いフィールドで活躍しています。

個々のニーズに応じた支援を実施し、職業を通じた社会参加に繋げる

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 福島支部 福島障害者職業センター 鈴木 祥大／2016年3月 社会福祉学科 卒業

障害者職業カウンセラーとして、障害のある方のアセスメント、就職、職場定着、および職場復帰のための支援を地域の就労支援機関と連携しながら実施。障害の態様に応じた支援を行うため、まずはご本人の話すことに傾聴し、その上で相談を重ねて真のニーズを把握していきます。さまざまなバックグラウンドを持つ人との対話を進める力は、多様性を受け入れる学部の雰囲気や、実践的な対話スキルの学びの中で培いました。ご本人の意思を尊重し、共に方向性を模索することで、焦りや不安の軽減はもちろん、センターを利用して良かったと思っていただけるよう取り組んでいます。



鈴木さんの4年間

- 1年次**
「日本手話」の授業では手話をコミュニケーションの手段としている講師から、「新しい言語」を学ぶ留学をしているような感覚でした。
- 2年次**
オフィス・アワー（※）を活用して先生に質問に行くなど、興味を持った科目に関する専門性を深めていきました。
- 3年次**
卒業後の進路の選択肢を探るべく、大学院への進学準備および民間・公的企業への就職活動を始めました。
- 4年次**
「社会福祉士」の国家資格を取得。学部での学びと資格を活かすため障害のある方に職業的な支援を行う機関に応募し、現在に至りました。

※オフィス・アワー：授業や学生生活に関する学生からの質問や相談に、教員が応じるために設けられた時間



当事者の声を尊重する姿勢が、地域課題を考える鍵になる

宇陀市役所 企画課 仕事づくり推進隊 川原 菜緒／2019年3月 社会起業学科 卒業

起業家として奈良県宇陀市に所属し、古民家ゲストハウスを開業する準備を行っています。現在は事業計画書の作成や資金調達に取り組んでいます。地域課題の当事者の声を尊重し、自分にできることを考えるという思考パターンで、業務のフローチャートを構築。支援者としてではなく、地域の方々と同じ目線で課題に向き合う姿勢は、大学時代の三重県松阪市波瀬地区のフィールドワークをはじめとする学びで身についたものです。私の事業に価値を感じ応援してくださる人々の存在を糧に、引き続き力を注いでいきます。

川原さんの4年間

- 1年次**
ホームレスの中間就労支援など、多様なフィールドワークを経験。自分の意見をまとめ、発表する機会を多く持ちました。
- 2年次**
波瀬地区の子どもを対象に、地域の未来を考える活動を展開。地域を取り巻く課題についてさまざまな意見に触れ、多面的な視点を持つことの重要性を学びました。
- 3年次**
多様な考え方に触れた2年間を振り返りながら、自己の興味・関心がどこにあるのか、深く自分自身と向き合いました。
- 4年次**
学部の先生や仲間たちの後押しを受け、自ら仕事を作り出す起業の道に進むことを選びました。

遺児が抱える困難を正しく理解し、一人ひとりの心に寄り添う

一般財団法人あしなが育英会 心のケア事業部 神戸レインボーハウス 高橋 耕生／2015年3月 人間科学学科 卒業
 2017年3月 人間福祉研究科 前期課程修了

遺児のグリーフサポートを担当し、月に2度開催するグリーフプログラム（心のケア）を開催しています。親を亡くした経験は同じでも、その苦しみは一人ひとり異なるもの。子どもとのコミュニケーションでは、それぞれに固有の体験や感情があることを理解し、本当の気持ちを受け取るよう心がけています。「人間科学フィールドワーク」の授業で参加した遺族会での経験などから培った、個性や多様性を尊重して物事を見る視点が役立っていると感じます。今後は、大切な人を亡くした人々の集いの場を全国各地に広げていく活動にも携わりたいです。



高橋さんの4年間

- 1年次**
「人間科学入門」などの授業を通して、病気や障害、貧困といったさまざまな要因で社会に生きづらさを感じている人がいることを知りました。
- 2年次**
知的障害児のキャンプへの参加など、生きづらい社会の現状を自分の目で見て確認するために行動しました。
- 3年次**
ゼミで出生前診断について研究。命の在り方を議論したり、意識調査をしたりすることで、多様な価値観に触れることができました。
- 4年次**
学部で学んだ理論と実践に対する理解をより深めるために、大学院人間福祉研究科への進学を決めました。



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

＜ 読者アンケート ＞

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください！

ご回答にあたって

- ・パソコンまたはスマートフォンなどから、右記アンケート回答先にアクセスしてください。
- ・アンケート上の個人情報は、広報資料の改善の目的以外には一切使用しません。
- ・アンケートはお一人につき一回のご回答とさせていただきます。
- ・Webでのご回答ができない場合には、アンケート用紙もしくはお電話でもご回答いただけますので、本学部事務室までお問い合わせください。
- ・データ通信料等はご回答者様のご負担になります。

「人間福祉学部 学部紹介ガイド2021」を
ご覧いただきありがとうございました。
より良い冊子にするため、アンケートにご協力をお願いいたします。



アンケート回答先

<https://forms.gle/kmCxXpcY435xUtpA9>



※本紙の掲載内容は、2020年8月時点のものです。

お問い合わせ先

関西学院大学 人間福祉学部事務室
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL:0798-54-6844
https://www.kwansei.ac.jp/s_hws



関西学院大学 入試情報サイト
<https://www.kwansei.ac.jp/admissions>

